

## 「地域の活性化」への取り組み

# 2018



▲宮内支店農業祭

### 1支店1協同活動で、地域に なくてはならない支店へ

組合員に寄り添い、地域に貢献できる支店を目指し、各支店で「1支店1協同活動」を展開しています。管内小学校への野菜・稲の栽培支援や交通安全指導、農業祭の開催等、町内会や地区コミュニティセンター、学校等と連携しながら、多くの方が参加できる様々な活動を展開しています。



▲枝豆の選別を体験する参加者

### 食と農の学びの場を提供 夏休みアグリスクール

毎年管内の若手農業者等で構成するJA青年部が中心となって「夏休みアグリスクール」を開催しています。農業体験や農業者との交流を通じて、次世代を担う子どもたちに食と農の大切さを伝えています。当JAで展開する食農教育活動の中でも特に力を入れている取り組みの一つです。



▲食農教育クイズで盛り上がる会場

### 食農教育の浸透へ 出張食農教育講座

園児に食と農について楽しく学んでもらうため、当JA主催で食農教育出前授業を実施しています。JA職員が保育園まで出向き、食農教育に関する紙芝居やクイズ、おにぎり作りなどを行います。平成30年度から新たにはじめた取り組みで、9～10月にかけて長岡市内4園で実施しました。



▲地元農産物を使った給食メニュー

### 管内の小中学校へ 安全・安心な地元農産物を提供

管内の子どもたちに安全・安心な地元農産物を食べてもらおうと、学校給食用食材の提供に取り組んでいます。平成30年度は越後ながおか米の提供65校（小中学校のみ）、地元野菜の提供21校（幼稚園含む）となっています。今後も生産者、行政と連携しながら、取り組みを継続していきます。



▲イベントで賑わうなじら～て関原店内

### 地産地消の拠点 JA農産物直売所「なじら～て」

農家の皆さんが大切に育てた農産物を販売するJA農産物直売所「なじら～て」では、年間50回以上のイベント開催、品揃えの充実等に取り組む、来場者数と売上を伸ばしています。出荷会員数も年々増加し、生産者と消費者をつなぐ地産地消の拠点として大きな役割を担っています。



▲ちまき作り教室

### 地域住民の交流広場 市民交流施設「e-ne（イネ）」

JA農産物直売所「なじら～て」東店に併設された市民交流施設「e-ne」では、地元農産物を使った料理教室やお菓子作り教室、女性部による郷土料理教室等、年間100回以上のイベントを開催しています。生産者・消費者・市民の新たな交流の輪がJAから広がっています。

# 自己改革

JA越後ながおかは組合員の皆さんの声を真摯に受け止めつつ、自己改革に着実に取り組んでいくことが重要であると考えています。これからも地域になくてはならない存在でありつづけるために、「創造的自己改革」に取り組んでいきます。

取り組みの実践状況をお知らせします。



# JAグループは、地域に“なくてはならない”存在をめざして 創造的自己改革 を実践しています！

# JA越後ながおかの 「自己改革」への取り組み

## 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」への取り組み

JAグループは、

地域農業の持続的な発展と、

安心して暮らせる豊かな地域社会の実現のために

自ら改革を進める

「**創造的自己改革**」を実践しています。

「**農業者の所得増大**」「**農業生産の拡大**」

「**地域の活性化**」の3つを基本目標に掲げ、

地域農業振興や地域づくりに取り組んでいます。



「自己改革」3つの基本目標

**Q1** 政府が進める「農協改革」とJA自らが取り組む「自己改革」は何が違うの？

**A** 政府は大規模農家を中心とした日本農業の大転換をめざしているのに対して、JAグループは経営規模に関係なくすべての組合員が持続可能な農業をおこなうことをめざしています。

**Q2** 農協改革で准組合員の事業利用が規制されるって聞いたけど、JAにとって准組合員は必要なの？

**A** 准組合員もJAの大切なパートナーです。正組合員が地域の農業を守り、それを准組合員がサポートする。正組合員と准組合員とで、JAの事業を通じて地域の農業とくらしを支えています。

政府が進める農業改革

**農協改革**

農業の成長産業化に向け、  
政府が推進する改革  
大規模農家・  
法人向けの政策

JAグループが取り組む改革

**自己改革**

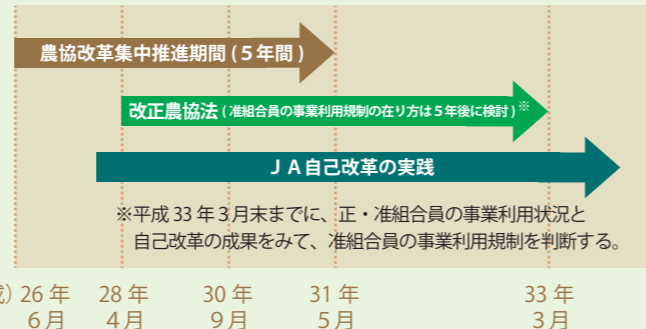
農業者の所得増大  
農業生産の拡大  
地域の活性化

自主・自立の協同組合として、  
JAグループ自らおこなう改革  
多様な担い手を含めた支援策

### 農協改革・JA自己改革のスケジュール

政府は、農協改革の名のもとに「JA組織・事業の見直し」を掲げ、JA事業の分離、解体も含めた検討をおこなっています。

特に、平成31年5月までは農協改革集中推進期間となっており、政府は組合員の事業利用状況、JAの自己改革の成果等を詳しく調査し、その結果を以て准組合員の事業利用規制等を判断としています。現在、JAグループは自己改革の実践に全力で取り組んでいるところです。



▲収穫を迎えるエコ・5-5米

### 「エコ・5-5運動」を中心に 日本一の米産地を目指して

農薬・化学肥料を従来の2分の1以下に抑えた環境にやさしい米づくり「エコ・5-5運動」に約3,000戸の大規模で取り組んでいます。きめ細やかな指導に基づいた越後ながおかの米は、取引先や消費者から高い評価を得ており、毎年、JAの集荷量を上回るご予約をいただいています。



▲出荷を目前にした米倉庫

### 米の販売力強化に取り組み、 農業所得向上を実現

エコ・5-5運動を中心としたブランド力強化と積極的な売り込みにより、系統販売(JA全農等へ販売を委託する方法)メインの状況から直接販売の割合を年々増加させています。直接販売で得たメリットは農業者へ還元し、農業所得の向上につなげています。



▲水田を活用した広大な枝豆のほ場

### 枝豆・里芋・長ネギの 産地化による園芸振興

園芸生産の拡大に向けて、枝豆・里芋・長ネギの3品目を主要園芸作物に指定し、施設と営農指導体制を整備のうえ、産地PRにも力を入れています。なかでも枝豆については、本格的に取り組みを開始した平成26年度から4年間で作付面積が約2倍、販売金額は約3倍にアップし、取り組みが着実に実を結んでいます。



▲園芸流通センターの枝豆共同選別

### 共同利用施設の整備で 生産者の負担を軽減

平成29年度に園芸流通センターの稼働を開始し、農産物の選別・出荷をJAが請け負うことで、生産者の作業負担軽減を目指しています。また、平成30年度には東カントリーエレベーターに最新鋭のサイロ冷却装置を導入しました。生産者の搬入時間短縮と高品質保持が期待されています。



▲最新機械を導入した太田多目的営農組合

### 「元気な農業応援積立金」で、 地域農業の発展を支援

地域農業の持続的な発展を支援する目的で、独自の積立金「元気な農業応援積立金」を用意し、地域の意欲ある農業者のサポートに役立てています。平成30年度は、深沢町のホールクロップサイレージ生産組合と、太田地区の太田多目的営農組合へ農機具導入等の支援を行いました。



▲農事組合法人の設立総会

### 集落営農の継続へ 農事組合法人の設立を支援

生産者の高齢化に伴う担い手不足が問題となる昨今、地域の農業を請け負う法人の重要性が高まっています。JAは各地区の問題に生産者と共に向き合い、法人の設立に向けた支援、設立後のフォローを行っています。地区の営農担当が中心となって、きめ細やかなサポートを行います。